

学生対応力の強化 ～学生の自己実現のために～

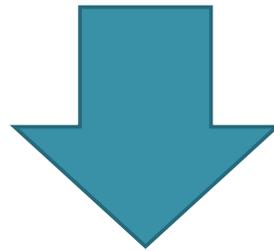
グループ名： 社会の歯車
(C-3)

大学全体の学生対応力が低いと



学生の自己実現ができない。

職員が教員との連携を図るためには、職員全体での意識を統一することが必要！



まずは、職員から行動する。

1. 組織構成員の改革

部署間でたらいまわしにあった。
問い合わせに素早く答えられない
授業に対して不満がある
職員の対応に不満がある学生
新しい発想がでてこない。
ザ・現状維持信仰者がいる

1-1 職員の意識を高める

(例)

- 大学の理念や建学の精神の再確認
- 関連法規等の勉強会
- 研修会への参加
- 笑顔や挨拶の徹底



大学職員としての意識統一

2. サービス向上

学生の満足度が下がる
大学に対して信頼感を損なう
相談をどこにしているの・・・
学生が有益な情報を知らない
情報が多すぎる
自分に必要な情報がわからない

2-1 情報を発信する

(例)

- ホームページの充実
- 各種施設の案内

利用促進を図る

2-2 相談をしやすい環境の整備

(例)

- 総合相談窓口の設置
- メール相談
- 学生便覧のWEB公開

学生の利便性を向上させる

3. 教職協働にむけて

教員と職員の意見が違う
個々の取組だけでは小さい効果
教育パフォーマンスの低下
双方に不満をもつ
大学全体の一体感がでない。

3-1 教員の意識を高める

(例)

- 意識の高い教員による研修会の実施
- 職員がデータを集積し教員に提供

3-2 教員との連携

(例)

- 教職員全体による研修会の実施
- 教員とのグループウェアを導入

大学全体の意識統一



4. 教職協働によるステークホルダーの満足度向上

学生の意欲が低下する
イメージと現実のギャップ
空登録の増加
教員と職員の対応が違う
社会的な信用性が足りない

4-1 学生のニーズを汲み取る

(例) **現状では足りない!**

- ・ 各種アンケートを徹底的に充実させ、
- ・ 結果を教員にフィードバックを強化する。

学生の満足度が向上する

4-2 教職協働

(例) **教員の求める目標を職員が理解することが前提で**

- ・ 学生にわかりやすいシラバスの整理

授業のミスマッチ防止

4-3 学生の修学状況の把握

(例)

- ・ 教職員間で個々のデータを共有し、
- ・ それを各部門毎に有効に活用する。
- ・ 的確なアドバイスなどに繋げる。

**問題のある学生の早期対応
退学者の減少
未内定者へ適切な対応**

教職協働が実現することで
対応力が上がり理想の姿になる



全ては学生の自己実現のために！

ご清聴ありがとうございました。